

## はしがき

法学を学ぶと、どのような興味深い課題に出会い、かかわることができるのか。文系・理系を問わず、東京大学の学部1年生・2年生を対象として、東京大学法学部の教員13名が講義をしました。本書は、そのような授業の記録です。

学部1年生・2年生だけでなく、法学部とはどのようなところなのかと関心を持った高校生、学ぶ意義を再確認しようとする学部3年生・4年生や法科大学院の学生、他の分野を専門とする学生、アンテナをさらに磨こうとする職業人など、多くの皆様が手に取ってくださるならば、ありがたく存じます。どの講からでも、自在の順序でお読みください。

13講を1冊にまとめるにあたって、世界を揺るがす国際問題においても法が深く関係することを示す「ロシアのウクライナ侵略と国際法」を最初に置き、それに続いて、日本法など国ごとの法が主な舞台となる講を置いています。国ごとの法であっても、他の国々と比較したり、相互に影響を及ぼし合ったり、国外で生じた事実日本法を適用したりする場合があることを、感じ取っていただければ幸いです。

2022年7月に、『まだ、法学を知らない君へ——未来をひらく13講』を刊行しました。2021年度に講義をした13名の教員によるものでした。

本書は、2022年度に講義をした教員を中心に、別の同種の機会に講義をした教員を含め、やはり総勢13名が、それぞれ1講を文

章にしたものです。書籍としての刊行にあたり、新しい情報を取り入れた内容としています。

2021年度は、東京大学教養学部の法・政治部会が開講責任母体である総合科目「法と社会」の軒をお借りしていました（題目名は「現代法学の先端」）。幸い、これが軌道に乗ったため、2022年度からは、法学部を開講責任母体とする総合科目「現代と法」として開講しています。

2021年度は完全オンラインの形式でしたが、2022年度からは駒場キャンパスの900番教室で開講し、学生と間近に接しながら授業を行っていることも、大きな喜びとするところです。

本書の編集は、有斐閣法律編集局学習書編集部の中村希穂さんと北口暖さんが担当されています。藤本依子さんほかの皆様とともに進め、書名や装丁も親しみやすいものをお考えくださいました。

総合科目「現代と法」は、東京大学教養学部の科目として開講している授業です。また、授業の運営や本書の刊行に際して、法学部長である山本隆司教授などから助言や支援を受けています。

本書を刊行するにあたって、多くの皆様からのご助力に対し、感謝の気持ちを新たにしています。

2024年7月

「現代と法」委員会を代表して  
白石 忠志

# 目 次

## 第 1 講

国際法

### ロシアのウクライナ侵略と国際法 (中谷和弘) ————— 1

- I はじめに 1
- II ロシアのウクライナ侵略の違法性 2
- III 国連の動向 4
- IV 個別的・集団的自衛権 6
- V ロシアに対する経済制裁 7
- VI 凍結資産の行方 11
- VII ウクライナによる国際司法裁判所への提訴 14
- VIII プーチン大統領らの国際刑事責任を問う可能性 15
- IX おわりに 16

## 第 2 講

公法

### 法を通じて世界を見る (巽 智彦) ————— 19

- I はじめに 19
- II ルールとしての「法」 20

- Ⅲ 誰がどのような手続でルールを作ることができるのか 24
- Ⅳ 誰がどのような手続でルールを作るべきなのか 27
- Ⅴ 結びに代えて——法と権利、法学と学問 32

### 第3講

憲法

#### 国会のオンライン審議は可能か (穴戸常寿) ————— 35

- Ⅰ はじめに 35
- Ⅱ 国会の本会議をめぐる憲法の規定 37
- Ⅲ オンライン審議をめぐる第1ラウンド 38
- Ⅳ オンライン審議をめぐる第2ラウンド 44
- Ⅴ 国会のオンライン審議をめぐる論点 47
- Ⅵ むすびに 51

### 第4講

刑事訴訟法・少年法

#### 18歳、19歳の者は大人か？ 子どもか？ (成瀬 剛) — 54

- Ⅰ 問題の所在 54
- Ⅱ 刑事手続と少年保護手続の比較 58
- Ⅲ 令和3年の少年法改正 66
- Ⅳ 検 討 70

### 第5講

社会保障法

#### 多様化する働き方と社会法 (笠木映里) ————— 73

- Ⅰ はじめに——「労働者として働く」ことの法的な意味 73
- Ⅱ 労働者階級の誕生と社会法 77

## 目 次

Ⅲ	社会法による労働者の保護と自由の制限	78
Ⅳ	労働者とは誰のことか	81
Ⅴ	社会法が前提とする働き方とその変容	82
Ⅵ	フリーランスという働き方	84
Ⅶ	プラットフォームワーク	86
Ⅷ	兼業・副業の可能性の拡大	88
Ⅸ	おわりに——多様な働き方が開く無限の可能性と、リスク	88

### 第6講

フランス法

#### 母子関係の比較法

——外国法の参照は無意味か？（齋藤哲志）—— 90

I	はじめに	90
II	子——X	92
III	子——母・母	99
IV	おわりに	104

### 第7講

商法

会社はSDGsのために存在するのか？（松井智予）—— 108

I	会社法における株主とステイクホルダーの位置づけ	108
II	株主第一主義の歴史的源泉	110
III	株主第一主義の理論的根拠づけ	114
IV	ステイクホルダー重視のアプローチ	116
V	サステナビリティDD規制	118
VI	実施に際しての問題点	120

## 第8講

知的財産法

### なぜデッド・コピー（酷似的模倣）を禁止 しなければいけないのか？（田村善之）————— 123

- I はじめに 123
- II 通産省の思惑 124
- III 当時の学説の状況 126
- IV 筆者との相談 126
- V 立法論の際に心がけるべきこと 127
- VI 市場と法の役割分担という観点からの帰結 129
- VII 法的判断主体間の役割分担という観点からの帰結 133
- VIII 結 び 136

## 第9講

交通法

### 自動運転と法・その1——総論（藤田友敬）————— 137

- I はじめに 137
- II 自動運転に期待される役割 138
- III 自動運転のレベル 139
- IV 自動運転にかかわる法的ルール 141
- V 道路交通法の改正 143
- VI 道路運送車両法の改正 147
- VII 事故に関する責任 150
- VIII む す び 152

## 第10講

交通法

## 自動運転と法・その2

——自動運転車による交通事故と民事責任・刑事責任

(後藤 元) —— 154

- I はじめに 154
- II 民事責任・刑事責任とその目的 156
- III 自動運転車による交通事故と民事責任 158
- IV 自動運転車による交通事故と刑事責任 165
- V 終わりに 168

## 第11講

競争法

## 大きいことは悪なのか？ 競争法は

巨大企業にどう対処するか (Simon VANDE WALLE) — 170

- I はじめに 170
- II 大企業とは 172
- III 競争法の焦点は「大きさ」ではなく「力強さ」 174
- IV 【具体例】Google とトヨタは市場支配力を持っているか 177
- V 市場支配力があるというだけで違法なのか 180
- VI 競争法は大企業に対して何か対策を講じるべきなのか 181
- VII 昔から競争法は市場支配力を問題としなかったのか 182
- VIII 競争法は再度変わるのか 183

## 第 12 講

租税法

### 租税競争をくいとめる (増井良啓) ————— 185

- I はじめに 185
- II 租税競争とは何か 186
- III 柱 2 の概要 189
- IV どのような課題を抱えているか 192
- V 授業参加者への「お題」 196

## 第 13 講

競争法

### 競争法の国際的適用 (白石忠志) ————— 200

- I 法の国際的適用 200
- II 競争法の国際的適用の定着 202
- III ブラウン管事件の核心部分 (第 3 段階) 208
- IV 今後のために 212

事項索引 (216)



## 執筆者紹介

\*執筆順

### 中谷和弘

(なかたに・かずひろ)

東海大学法学部教授、東京大学名誉教授

重大な国際法違反に国際社会はどう合法的・実効的に対処するか。「国際社会における法の支配」の真価が問われています。

---

### 巽 智彦

(たつみ・ともひこ)

東京大学大学院法学政治学研究科准教授

法学に初めて触れる方はもちろん、触れたことがあるものそのときは面白く感じなかった方にも、お勧めしたい本です。

---

### 宍戸常寿

(ししど・じょうじ)

東京大学大学院法学政治学研究科教授

法が、政治や経済、社会に密接に関わっている、生き生きとしたものであることを、この本を通じて感じてください。

---

### 成瀬 剛

(なるせ・ごう)

東京大学大学院法学政治学研究科教授

社会のルールに疑問を感じたことがある人は、既に法学の扉を開けています。その先にある豊かな世界を楽しんでください。

---

### 笠木映里

(かさぎ・えり)

東京大学大学院法学政治学研究科教授

これから新しい時代を作っていく読者の皆さんに、まずは考えることの楽しさと自由さを感じて頂ければと思っています。

---

### 齋藤哲志

(さいとう・てつし)

東京大学大学院法学政治学研究科教授

かつての法やよその法にも是非目を向けてみてください。いま・ここにある法の学習にも意外に効き目があります。

---

## 松井智予

(まつい・ともよ)

東京大学大学院法学政治学研究科教授

現代社会に所与の制度も、過去の社会の産物です。将来を模索する際に制度の前提を問い直すことも、法学の営為です。

---

## 田村善之

(たむら・よしゆき)

東京大学大学院法学政治学研究科教授

法学は、社会を動かしていく制度を設計するダイナミックな学問です。その一端を本書で味わっていただければと思います。

---

## 藤田友敬

(ふじた・ともたか)

東京大学大学院法学政治学研究科教授

新しい科学技術の進展により従来の制度の大前提が維持できないとき、どうすればよいか、柔軟な発想で考えてください。

---

## 後藤 元

(ごとう・げん)

東京大学大学院法学政治学研究科教授

今ある法律をどう解釈するかだけではなく、どのような制度が望ましいのかを考えることも、法学の重要な役割です。

---

## Simon VANDE WALLE

(ヴァンドゥワラ・サイモン)

東京大学大学院法学政治学研究科教授

法学は多様なキャリアへの道を拓き、正義と現実をつなぐ。この本を通して、法律の世界の魅力に触れてほしい。

---

## 増井良啓

(ますい・よしひろ)

東京大学大学院法学政治学研究科教授

コロナ明けの対面式の講義で、思わず力が入りました。講義のあと白石先生とおいしい蕎麦を食べたのも、良い思い出です。

---

## 白石忠志

(しらいし・ただし)

東京大学大学院法学政治学研究科教授

引き続き、毎回、教室で司会をしています。清新な学生が新たな知見に接して一歩前に進む様子に触れる楽しい仕事です。

---

## いま、法学を知りたい君へ 世界をひろげる13講

---

2024年9月10日 初版第1刷発行

編者 東京大学法学部「現代と法」委員会  
発行者 江草貞治  
発行所 株式会社有斐閣  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17  
<https://www.yuhikaku.co.jp/>  
装丁 堀由桂里  
印刷 株式会社理想社  
製本 大口製本印刷株式会社  
装丁印刷 株式会社享有堂印刷所

落丁・乱丁本はお取替いたします。定価はカバーに表示してあります。

©2024, 東京大学法学部「現代と法」委員会。

Printed in Japan ISBN 978-4-641-12646-6

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。

**JCOPY** 本書の無断複写(コピー)は、著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(一社)出版者著作権管理機構(電話03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail:info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。